高齢者と介護者のメンタルヘルス研究班の調査研究支援活動
―東日本大震災の岩手県田野畑村人の支え合う力を思い起こし強める―

日本精神衛生学会　高齢者と介護者のメンタルヘルス研究班
喜多祐荘（前中部学院大学大学院）
岩崎弥生（前理事・千葉大学大学院）
廣池利邦（群馬医療福祉大学）

本研究班(以下、高齢者班)は、2011年３月11日の東日本大震災・大津波の被害を受けた田野畑村保健センターの要請により、学会理事会の了承のもと、高齢者班独自の立場で、独自の視点をもって、独自の日程を組んで現地を訪問し、福祉保健関係職員、利用者との交流を重ね、研究を重ね、報告活動をしています。

関係職員との勉強会、相談会、利用者から学ぶ会を通して、「支援者(相談員など)が村人と語らって、村の歴史や村人家族の歩みを共有し、心をつなげる活動」のお手伝いを続けようと考えています。

昨年は８月16～18日、11月21～22日に訪問しました。次回は2012年10月に訪問の予定です。

本学会ワークショップin神奈川では、報告会「被災地の人と共に学ぶ」を二回行いました（昨年11月13日、2012年２月12日)。参加者11名、田野畑村の歴史・保健センターの役割・勉強会の要約(資料)、印象的な「相談員が祖父を流されて、悲しみを秘めつつ利用者に接している」姿などが報告されました。ワークショップ参加者の関心が高まりました。

高齢者班は、複数の視点（①地理的条件、②生産生活技術、③住民の血縁地縁的つながり、④歴史的政治的経験、⑤犠牲者家族の扶助と悲しみを聴く、⑥災厄の記憶と備えを固める）から、苦しみを抱える人と高齢者・介護者と支援者によるメンタルヘルス・ケア・アクティビティ＆トランスアクション（悲しみを受け止め想い出を聴き共感しあい心をつなぐ）活動を年々続けたいと考えています。

(2012年８月10日、文責 喜多)